がん看護学実習Ⅱ

単位数：2 単位
時間数：90 時間
開講年次及び学期：1 年次後期

○若崎淳子	臨床看護学講座	教授
福田誠司	医療安全管理部　臨床遺伝診療部	教授
秋鹿都子	臨床看護学講座	准教授
高橋　勉	先端がん治療センター　腫瘍・血液内科	助教
杉浦弘明	医療法人医純会　すぎうら医院	院長
花田　梢	医療法人医純会　すぎうら医院　在宅診療部	部長
佐藤幸恵	医療法人医純会　すぎうら医院　在宅診療部	副部長

１．科目の教育方針

がんに関わる看護職は、理学所見と検査データに基づき患者の状態を評価できること、治療内容と治療選択の根拠を理解すること、治療効果や有害事象を科学的に評価すること等の臨床判断能力と、それらに基づいた身体管理を行うことが求められる。本科目では、がん診療連携拠点病院において、がん治療の専門医の指導の下でがんの患者を担当し、患者を客観的に評価し、診断に至るプロセス、検査所見の解釈と判断を行う臨床判断能力を習得し、それらに基づいた身体管理を体験する。そして治療中、治療後に客観的に患者を評価し、治療効果の判定や有害事象を予測できる臨床判断力と、それらの結果に基づいた身体管理方針を考える能力を習得する。また、在宅診療部門では、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、医療内容と臨床判断過程を学習する。患者や家族の置かれた状況を理解し、その後の方針に関して在宅医と討論し、身体管理の方針決定プロセスを体験する。

２．実習目標

１）がん患者の治療前後の状態を、理学所見、検査所見に基づき客観的に臨床判断できる。
２）臨床判断過程を理解し、治療と身体管理方針が選択された根拠を述べることができる。
３）患者のステージ、予後等をデータに基づいて臨床的に判断できる。
４）治療を受けた患者の状態を客観的に評価し、特に副作用の発現を臨床的に判断できる。
５）副作用の有無と程度に基づき、身体管理計画を立てることができる。
６）治療後の状態と所見を客観的に評価し、治療効果を臨床的に判断できる。
７）治療効果の判定に基づき、身体管理方針を立てることができる。
８）オンコロジー・エマージェンシーを臨床的に判断し、適切な身体管理を計画できる。
９）がんゲノム医療の適応と限界を体験し、診断に基づいた身体管理計画を考えることができる。
10）担当症例を臨床判断に基づきカンファレンスで発表し、身体管理方針の決定に関わる。
11）在宅がん患者の状態を臨床的に判断し、それらに基づき身体管理方針を述べることができる。
12）がんの診断、ステージング、予後、治療の原理、副作用等の臨床判断と身体管理に関するいずれかの内容をスタッフに講義することができる。

３．教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

実習場所

・島根大学附属病院（都道府県がん診療連携拠点病院）
　　先端がん治療センター・緩和ケア病棟

・医療法人　医純会　すぎうら医院　在宅診療部

がん診療連携拠点病院では、がん治療の専門医と共に、身体所見、検査所見の解釈と判断など、患者を客観的に評価する臨床判断力を養い、それらに基づき診断に至るプロセスを学ぶ。そして、治療効果と有害事象を判断する力も獲得する。更に、治療に限界が生じた場合の選択肢を考え、それらに基づいた短期的、長期的身体管理計画を立てる能力を習得する。また、担当患者に関して臨床判断に基づきカンファレンスで発表し、身体管理方針に関してスタッフと検討する。在宅診療部門では、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、医療内容と臨床判断過程を学習する。そして、患者や家族の置かれた状況を理解し、方針に関して在宅医と討論し、身体管理の方針決定プロセスを体験する。

【評価】

実習記録と担当患者に関する総合的なレポートを作成する。レポートは上記の実習目標を全て含んだ内容とし、それぞれの達成度に応じて点数化し、口頭試問を行う。また、実習への積極的参加、看護の実践、カンファレンスでの発表や参加を総合して評点する。

４．使用テキスト

１）日本臨床腫瘍学会編集「新臨床腫瘍学」改訂第４版　南江堂

２）DeVita, Hellman, & Rosenberg's Cancer, 10th edition. Principles & Practice of Oncology　WOLTERS KLUWER

５．教育内容

１）入院患者 1－2 名を担当し、診察と検査データ解釈など患者を客観的に臨床判断する。

２）検査、診断、治療方針、身体管理方針決定のプロセスを体験し、患者のステージ、予後等をデータに基づいて担当医と討論し、臨床判断の過程を体験する。

３）治療効果や治療による有害事象の有無などの臨床判断過程を体験し、討論する。

４）治療または原病により生じる治療の限界とその後の身体管理方針を考える。

５）担当症例を臨床判断に基づきカンファレンスで発表し、身体管理方針の決定に関わる。

６）オンコロジー・エマージェンシーを判断し、対応を速やかに計画する。

７）がん患者の在宅診療において医師が行う臨床判断過程を学び、患者や家族の状況に基づいて、その後の身体管理の方針決定プロセスを体験する。

８）がんの診断、ステージング、予後、治療の原理、副作用などの臨床判断と身体管理に関するいずれかの最近のトピックに関して医師や看護師を対象に講義する。

９）がんゲノム診断や遺伝カウンセリングにも関わり、診断に基づき管理方針を考察する。